

サンホープ 40周年記念祝賀会開催

ネパールで新たな試みも



益満社長

ベンアリ
イスラエル大使

りだった。業界未経験からスタートしご心配をおかけした。関係者の皆様のご支援ご鞭撻なくして今はなかった。感謝したい」と挨拶した。

次に来賓として拓殖大学国際学部農業コースの竹下正哲教授が祝辞を述べた。同教授は産学連携の一環として3年前から栽培実験に参画し、灌水システムでコントロールした散水による生育収量

(株)サンホープは東京都目黒区中目黒1-1-71・KN代官山4F・益満ひろみ社長は9日、冒頭、益満社長は「16年前に会社を承継した高度な頭脳を持ちながら

長短所が真逆であり、イスラエルの独創的開発力と日本の生産技術等が組めば組織的に最強となる。まさに同社はそれを

の状況を試験し3年が経つことから生育状況を報告。その中で日本農業は生産性の低さが起因となり世界一高い農作物を作

以国のようにハイテク農業をする上で、例えば露地栽培でセンサー利用による精密農業を模索する

エル同様に生産性向上に向けた取り組みをすべきだとした。またJICAの要請でネパールに同社の持つノウハウを輸出することにより生産性向上

へ取り組んだ益満社長の構想力と発想力に敬意を表するとした。

次に以国のヤッファ・ベンアリ大使がお祝いの言葉を述べるとともに「農業は重要産業であり生産性向上に資するサイエンスだ。品種改良などの研究開発を積極的に高い輸送技術と相まってどんな所でも農作業ができる。それを実現するのは政府・研究・農家が三位一体となって取り組むことで成功をもたらす。日本でもそれは可能



原田上席商務官による乾杯が行われた



永年勤続表彰で益満アヤ総務部長に花束を授与

で、挑戦することさらなる発展が果たせる。日以が協力して人と知識の相乗効果が出ることを期待する」とした。続いてイスラエル大使館経済部の原田健上席商務官の音頭で乾杯が行われた。

同社の歴史を振り返る映像の後、永年勤続者として8人を表彰。そして益満社長のご尊母である益満アヤ経理部長も改めて表彰した。そしてサンホープのファミリー企業7社から記念品としてラ